

Title	ラムサール条約湿地片野鴨池におけるカモの飛行ルート の風向・風速条件による予測
Author(s)	西山, 久美子; 敷田, 麻実; 田尻, 浩伸; 稲葉, 弘之
Citation	野生生物保護学会第10回大会プログラム・要旨集: 36- 36
Issue Date	2004-11
Type	Presentation
Text version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10119/16913">http://hdl.handle.net/10119/16913</a>
Rights	Copyright (C) 2004 「野生生物と社会」学会. 西山久 美子, 敷田麻実, 田尻浩伸, 稲葉弘之, 野生生物保護 学会第10回大会プログラム・要旨集, 2004, p.36.
Description	

## ラムサール条約湿地片野鴨池におけるカモの飛行ルートの風向・風速条件による予測

\*<sup>1</sup> 西山久美子・<sup>2</sup> 敷田麻実・<sup>3</sup> 田尻浩伸・<sup>4</sup> 稲葉弘之<sup>1</sup> 金沢工業大学大学院・<sup>2</sup> 金沢工業大学・<sup>3</sup> (財)日本野鳥の会・<sup>4</sup> アルスコンサルタンツ(株)

石川県加賀市に位置するラムサール条約湿地片野鴨池は、日本有数のガン・カモ類越冬地であり、「賢明な利用」として伝統狩猟、「坂網猟」が現在も行われている。坂網猟はカモが採食のために鴨池から飛び立つところを狙い、その成果にはカモの飛行ルートが大きく影響する。カモの飛行ルートは一般に気象条件によって決定されると言われ、猟師は経験的に飛行ルートを推定している。そこで、本研究では経験則による飛行ルートを考察したうえで、風向・風速などの気象観測データから、カモの飛行ルートを予測することを目的とした。

2003年に竹山は、退役した坂網猟師のヒアリング調査を行い、風向・風速によりカモの飛行ルートが変化し、それがおよそ5ルートあることを明らかにした。さらに、過去3年間の加賀市の気象観測データを基に、風向頻度と風速から飛行ルートの割合を北ルート(1.5%)、北東ルート(1.5%)、南ルート(60.6%)、西ルート(6.0%)、東ルート(30.3%)と推定した。

以上を踏まえたうえで、さらに多くの坂網猟師の経験則と鴨池の気象観測装置の精密な風向・風速データから飛行ルートを予測するために、2004年に現役の坂網猟師約15人にアンケート調査を行ったところ、9人から回答を得た。その結果、鴨池から南に位置する坂場を選択する場合には「南よりの風」、西に位置する坂場を選択する場合には「西よりの風」、東に位置する坂場を選択する場合には「北から南よりの風」という傾向が明らかになった。そこで、飛行ルートを通過するカモの個体数カウント調査を2004年10月～11月に実施した。その結果、カモが飛行開始する16時～19時の卓越風は北東と南南東であり、東ルート、南ルートの通過割合が高いという結果を得た。さらに、カモの採食場所の位置と面積が与える影響を考察し、飛行ルートの予測精度を高めた。

コンタクトオーサー

西山久美子 金沢工業大学

〒921-8501 石川県石川郡野々市町扇が丘7-1

金沢工業大学大学院環境土木工学専攻敷田研究室

E-mail : nishiyama@venus.kanazawa-it.ac.jp